

2016年度 事業報告書

(2016年4月1日～2017年3月31日)

I 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

地域における環境保全の推進を図ることを目的として地域市民へ伝え、大ぜいの“もったいない”の思いを集め、WE ショップを拠点にリユース・リサイクル事業を展開し、資源の有効活用を図り地球環境の保全を目指します。

『基本方針』

- 1) WE ショップ星川店、天王町店を拠点としてリユース・リサイクル事業をすすめ、資源の有効活用を図ります。
- 2) 地球環境の保全をめざして、行政・企業・商店会や地域の運動グループ・団体と連携し活動をすすめます。また、地域内循環によるCO₂削減を目指します。

『事業内容』

(1) 「WE ショップほどがや星川店」「WE ショップほどがや天王町店」を運営し、地域のチャリティーショップとして安定した事業と心地よいショップづくりを目指しました。

- ①ショップ運営を円滑にすすめるため、ショップスタッフ3人体制を継続し、独自性ある年間計画を立てて安定した事業を目指しました。しかしながら、ショップの年間目標金額の720万円を達成することは出来ませんでした。衣類の売り上げが落ちていること、客数が減っていることなど、原因を分析し事業の安定に向けて対策を考える必要があります。
- ②日々の担い手であるボランティアの増員を図り、活力あるショップ運営を目指しました。
ショップ業務を安全に、かつバランスよく進めるために、すべての時間帯で偏りなく複数体制がとれるよう心がけましたが、ボランティア参加は広げられませんでした。
ボランティアに入りたくなるようなショップの雰囲気づくりが必要です。
- ③多世代の市民が集える心地よいショップをつくるため、ショップの一部リニューアルを実施しました。
星川店の看板リニューアルはスタッフでイメージを作成し、インフォメーションボードの活用を工夫しました。天王町店の棚のリフォームは見やすくなったとお客様には好評ですが、陳列イメージの共有が難しく、スタッフと理事の間で今後の検討課題です。
- ④セールやフェアなどの予告チラシを早めに作成することを意識して広報と連携して行いました。
特に着物フェアは10000枚のチラシを発行、配布エリアを検討し、初の5000枚の新聞折り込みを実施しました。ボランティアの手まきチラシ、DMはがき発送の実施とともに広報戦略に力を入れたことで、着物フェアの売上目標達成という嬉しい成果を出しました。インターネットで検索して若いお客様が来店したことは今後の広報対策への大きなヒントとなりました。
- ⑤ショップの危機管理、リスク管理態勢の確認を行いました。災害だけではなく、盗難対策、クレーム対策、個人情報管理、環境・健康面など広い意味での危機管理対策の必要性を共有しました。

(2) 地域における環境保全の推進をはかります。

- ①地域内循環によるCO2削減を目指し、寄付品を有効活用し環境に配慮した活動をすすめました。
- ②リユース・リサイクル部会を定例開催して情報を共有し、共有に努めました。
- ③貴重な資源の活用に向けてリメイク品の企画開発(セーター、ウール着物、Tシャツなど)を進めました。また、星川店リメイクコーナーのさらなる充実を図り、衣類をリメイク用として販売するコーナーを初めて設けました。
- ④リメイク連続WE講座「Tシャツを利用した布ぞうり作り」を開催し、着なくなったTシャツの活用を提案しました(9/14・21・27・アワーズ 9人参加)。講座参加者がその後のリメイク講座参加につながりました。
- ⑤リメイク講習会を毎月開催し、多くの市民の参加がありました。しかし参加者の減少や、参加者が固定化するなど、WEの運動としての広がりや共感につながらないことが課題です。
- ⑥ショップでの体験講座(ぞうり、さきおり)を開催し、多様な市民の参加をめざしましたが、参加者が少なく、開催方法の見直しが課題です。
- ⑦寄付品、リメイク品、フェアトレード品の在庫管理の徹底を図りました。
- ⑧リメイクチームメンバーが、市民活動センターアワーズ主催の「街の学習応援隊作品展」に参加し、和布を利用したリメイク作品(金魚、バッグ、ぞうり)を紹介しました(8/23～30・区民ギャラリー)
- ⑨ほどがや生涯学習フォーラムまなぶん祭りの体験コーナーに、今年度も「古布を使ったラグ・シュシュ作り」で参加しました(12/3、4 アワーズ 40人体験参加)。WEの団体紹介パネルも展示しました。
- ⑩リメイクチームが「もったいない」をテーマにしたNHKの国際向け放送、ラジオジャパンの番組の取材を受け、日頃のリメイク活動も紹介できました(12/7取材、12/15放送) メンバーが街頭インタビューを受けたことからの思いがけない展開でしたが、楽しく取材を受けたことで、メンバーの活力につながりました。
- ⑪WE21リメイク連絡会に参加し、他地域NPOとの情報を共有しました。
- ⑫WEフェスタ春 にリメイク作品を出品しました。またリメイクのワークショップの講師で3人参加しました(3/12 産業貿易センター)
出品数: 116 販売数: 45 売上金額: 43,000円
- ⑬WE21グループのリユース・リサイクル事業の価値を高めるため、10月の1ヶ月間、廃棄衣類量調査に参加しました。調査結果は、WE21ジャパンの事業報告書、年次報告書に記載されます。
- ⑭日本チャリティショップネットワークとWE21が連携して行った寄付品目調査に協力しました(2月2週間)。
- ⑮WE 油田(使用済み天ぷら油回収) 資源の地域内循環を進めました。
天ぷら油回収量 星川店 245kg(CO2削減量 637kg) 天王町店 280kg (CO2削減量 728kg)
- ⑯中区「寿支援者交流会」へ男性用衣類、日用雑貨(歯ブラシなど)を寄付しました。

【日時】(ショップ運営)

星川店 2016年4月1日～2017年3月31日 月曜日～金曜日(土、日、祝日休み)

天王町店2016年4月1日～2017年3月31日 月曜日～土曜日(水、日、祝日休み)

(他 活動) 2016年4月1日～2017年3月31日

【場所】 WE ショップ星川店・天王町店、その他神奈川県内・保土ヶ谷区内

【従事者人数】 スタッフ星川店3名、天王町店3名、リユース・リサイクル部会 6名、他ボランティア

【受益対象者】 主に保土ヶ谷区内の市民

【支出額】 13,312,298円

II アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業

アジア等に暮らす市民、そして支援先の人々と連携し、NPO や NGO 等により入手した情報を発信し、平和への関心を高め広めていきます。

『基本方針』

1) 支援先の人々と交流・報告会を通して課題を共有し、支援事業の共育の充実を図ります。

アジア等の人々の生活向上と自立のための活動を支援します。

『事業内容』

(1)主にアジア地域を対象として、草の根の市民の力を高めるため、NGO による現地プロジェクトへの支援をしていきます。

① 支援先の情報を速やかに入手して評価点検をし、支援につなげました。

・先住民族の命と暮らしと文化を守る「フィリピンルボ村鉱山開発跡地の環境回復と生活向上プロジェクト」(BGA)に20万円助成しました。

・「タイラオス国境地域におけるHIV予防啓発及びケアプロジェクト(シェア)」に10万円助成しました。

・フィリピンの先住民族のための農業支援(BENNETEN)から活動報告が届いたため、昨年度よりペンディングしていた2015年度分の助成金5万円を送金しました(1月)。

・新たな支援先として、カンボジアの都市・農村で住民活動に取り組む女性達の「地域女性エンパワメント・プロジェクト」の活動に賛同し、30万円を助成しました。

・特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET)のチョコ募金に参加(1~2月)店頭での掲示、チラシなどで、医療支援の活動内容のアピールを行いました。
募金額:50,650円になりました。

・バングラデシュ・チッタゴン丘陵地帯の平和を求めて活動する「ジュマ・ネット」の団体会員を継続し、3月のロヒンギャ難民緊急食糧支援の呼びかけに応じて、5万円を支援しました。

・フィリピンイヤマンの子どもたちにクレヨンを送るレインボーキャンペーン(12/1~20)に参加し、店頭募金6000円を寄付しました。

② WE21の支援先連絡会と連携し情報の共有に努めました。

・昨年までの支援先、農村地域女性のエンパワメントを目的とする「インドDRCSCプロジェクト」スタッフ来日報告会に2人参加しました(6/7)

・BGA 事業支援連絡会「足尾銅山ツアー」に2人参加しました(6/12,13)。

・足尾銅山植樹体験ツアーに2人参加しました(11/6)。

・草の根の市民、特に女性を支えることで地域コミュニティの再建を目指すカンボジアのツアー報告会(4/15)に4人、プロジェクト報告会(11/23)に3人参加しました。

(2) 国内において抑圧された人々の力を高めます。

①東日本大震災の被災者支援を継続し、「3. 11を忘れない」活動を進めました。

毎月11日の売り上げの30%、3月11日の売上全額を、福島原発事故で被災した子どもたちの保養プログラムを実施している福島ぽかぽかプロジェクトに寄付しました。また、フェアトレードフェア、3月11日には、東北からの物産販売を行いました。

天王町店の食器を、子どもたちの保養場所である「福島ぽかぽかハウス」に2回送りました。支援金だけではなく被災者との交流の実施などWEほどがやとしてできることを考えていきます。

福島ぽかぽかPJ. 4~9月 78,761円 10~3月 151,534円 募金 25,440円

②貧困なくそうキャンペーンを開催しました(10/1~17)

今年度は、国内でも広がっている貧困に目を向け、生活や人間関係において貧困状況にある人々へ支援を行っている「認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい」の大西連氏を講師に貧困学習会を開催しました(10/12 参加人数 23人) チャリボン(古本、DVDの寄付)や、ショップ展示でのアピール ミニチラシ 配布、当日売上など 総額 75,426円を「もやい」に寄付しました。

ほどがやでは、数年間、認定NPO法人ACEの児童労働撲滅プロジェクトに支援してきましたが、ACEの支援事業が順調に拡大していることから「貧困なくそうキャンペーン」への支援は終了としました。

③4月14日に起こった熊本地震への緊急募金を 4/16~6/30まで店頭で実施しました。

寄付先を子どもたちの精神的なケアを行っている「地球のステージ」に決定し、79,733円を寄付しました。「地球のステージ」の活動を店頭、ニュースなどで報告しました。

④「3. 11甲状腺ガン子ども基金」へ、「日本と原発4年後」上映会当日の募金額22,671円とWEほどがやからの寄付金17,329円、合計4万円を寄付しました。

(3) アジア地域および国内の市民と学びあう場をつくります。

①支援先NGOとの交流を深め、現地の課題を市民と共に学ぶために、BGA 支援先メンバーの招聘事業「足尾銅山研修ツアー」(7/12~14)に参加しました。また、フィリピンのメンバーの宿泊と、ほどがやのショップ見学受け入れを行い、交流を図りました(7/15)。研修後のフォーラムに4人参加し、足尾での学びが現地の植生計画に生かせる成果を、支援先と支援地域NPO全体で共有できました。

・他地域NPOとともに「足尾銅山植樹体験ツアー」に参加し、鉱山問題への理解が深まりました

(11/6、2人参加)

②フェアトレードに関する市民の関心を高めるために、天王町店でフェアトレードフェアを5月と12月の2回開催し、ディスプレイやチラシ、掲示に工夫し、公正な価格で購入した多彩なフェアトレード品の販売を行いました(5/12~17: 54,541円(目標額5万円) 12/1~6: 53,678円(目標5万円))

WE21主催の「今日はフェアトレードの日学習会(11/12)」に3人参加し、問題意識を共有しました。

桜木町周辺のフェアトレード店を訪問し、販売の状況やディスプレイ方法を学び、ショップでの販売に生かしました。

| 支援先 | プロジェクト名 | 助成金 | 寄附金 | 募金 |
|------------------------------------|--|----------|----------|--------------------|
| ベンゲット・グリーン・アクション (フィリピン) | フィリピンルボ村鉱山開発跡地の環境回復を目的とした、植林と環境活動及び生計向上事業 | 200, 000 | | |
| シェア (タイ) | タイ-ラオス国境地域における HIV 予防啓発及びケアプロジェクト | 100, 000 | | |
| 「地域女性エンパワメント・プロジェクト」(カンボジア) | カンボジアの都市・農村で住民活動に取り組む女性達のワークショップ | 300, 000 | | |
| フィリピンの先住民族のための農業支援(BENNETEN) | ベンゲット州の先住民族のための鉱山開発防止と環境農業生計手段事業 | 50, 000 | | |
| 特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET) | イラクの小児ガン医療支援、シリア難民・イラク国内避難民支援・福島の子どもたちを放射能から守る活動 | | | 50, 650 |
| ジュマ・ネット | バングラディッシュとミャンマー国境における難民への緊急食糧支援 | | 50, 000 | |
| IYAMAN. INC (フィリピン) | レインボーキャンペーン (子どもたちにクレヨンを送るプロジェクト) | | | 6, 000 |
| 認定NPO法人 FoE JAPAN | 福島ぼかぼかプロジェクト (福島の子どもたちの保養プログラムへの支援) | | 230, 295 | 25, 440 |
| 認定NPO法人 幼い難民を考える会 (カンボジア) | みんなで布チョッキン (カンボジアの子どもたちの遊具作りのお手伝い) | | | 20, 000 |
| 認定NPO法人 自立生活サポートセンター・もやい | 生活や人間関係において貧困状況にある人への自立支援 | | 48, 120 | 16, 862 10, 444 |
| 地球のステージ | 熊本地震で被災した子どもたちの精神的ケアに関する活動 | | | 79, 733 |
| 3.11 甲状腺ガン子ども基金 | 原発事故後、甲状腺ガンと診断された子どもへの療養費給付支援事業 | | 17, 329 | 22, 671 |
| | 合計 | 650, 000 | 345, 744 | 231, 800 |

【日時】 2016年4月1日～2017年3月31日

【場所】 保土ヶ谷区

【従事者人数】 支援チーム5名、天王町店スタッフ3名、星川店スタッフ3名

【受益対象者】 一般市民、支援先の住民

【支出額】 1, 276, 112 円

Ⅲ 地域市民の国際的な問題意識の向上を図る事業(共育事業)

WE ほどがやの活動を広げ、理解を深めるため地域市民に呼びかけ学びます。また、WE21 や各 NGO と連携し活動や世界情報を共有します。

『基本方針』

- 1) WE ほどがやの活動の一環である資源のリユース・リサイクル事業、支援事業、また適時に社会問題について学びます。
- 2) 会員・ボランティア相互の共有を図ります。

『事業内容』

(1) 世界で起きている問題や課題について、自分たちの暮らしとのつながりを学び、行動する市民を増やします。

①国内外を問わず社会で起きている問題やWEほどがやの活動に関わりのあるテーマで WE 講座やイベントを開催し、会員・ボランティアや地域市民、団体・グループとの交流を深め、相互の共育を図りました。

・定期総会の前に「日本のチャリティーショップの課題と展望」を学び、会員のチャリティーショップへの理解が進みました (5/15 贅川さん講師 25 人参加)

・テーマ性をもった企画として、昨年に続いてWE旭との共催で「日本と原発 4 年後」上映会を開催しました(9/4 保土ヶ谷公会堂)

河合監督の来場の効果も大きく、脱原発に向けてアピールを行うことができました。

来場者に3. 11甲状腺ガン子ども基金募金への参加を呼びかけました。当日募金額22, 671円とWEほどがやからの寄付金17, 329円、合計 4 万円を寄付しました。

・リメイク連続講座「Tシャツを利用した布ぞうり作り」(9/14, 21, 27 9 人参加) を開催しました。

・国内の貧困に目を向け、生活や人間関係において貧困状況にある人々へ支援を行っている「認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい」の大西連氏を講師に「貧困学習会」を開催しました。身近に広がっている貧困の状況を知り、自分たちに出来ることは何かを考える機会にしました

(10/12 参加人数 23 人)

・カンボジアの子どもに遊具を届けるお手伝いをする認定NPO法人「幼い難民を考える会(CYR)」の「みんなで布チョッキン」を今年も開催しました。当日は岩崎中学校の職業体験生 4 人も参加し、CYRから講師を招いて現地の状況のDVDをみながら説明してもらいました。参加者の広がりがなかったことは残念ですが活動への理解が進み、中学生からも「印象深い体験となった」との感想が届きました。

人形 10 体 ボール 20 個 募金 2 万円(1/25 13人参加)

・脱原発社会に向けた取り組みを進めるため、シンポジウム「自分で選びたい、原発に頼らないエネルギー」をWE21ジャパン・旭とWE21ジャパンいずみと共催で開催しました。(3/17 旭区民文化ホール

175人参加)

基調講演には、3. 11をきっかけに、地元の会津で地産地消の電力会社を立ち上げた(株)会津電力社長の佐藤彌右衛門氏をお招きし、2部は佐藤氏に加えて電力の共同購入を推進している(株)生活クラブエナジー代表の半澤 彰浩氏、相模原で地域の仲間達と身の丈に合った電気を生み出す活動をしている藤野電力のプロジェクトリーダー鈴木俊太郎氏とのパネルディスカッションでした。3者3様の自然エネルギーへの取り組みに共通しているのは、依存せず自分たちでやること。エネルギーを選ぶことは自分の暮らし方、生き方、そして持続可能な地域づくりにつながる事が確認できた有意義なシンポジウムになりました。今後のほどがやの環境を考える活動につなげていきます。

②現地スタッフの帰国やモニタリングツアーに合わせて、支援先報告会を開催しました。

・インドDRCSCプロジェクト モニタリングツアー報告会 (4/2 報告者:大窪昭子さん)

③世界的に拡大する貧困格差の現状を知り、自分たちにできることを考え行動する市民を増やすため、以下の提言活動に賛同表明しました。

- ・プロサバナ事業への提言活動を続ける、モザンビーク開発を考える市民の会の「プロサバナ三ヶ国市民共同抗議声明」に賛同表明(9/3) 「プロサバナ事業にノー」をいうキャンペーンに賛同表明(2/20)
- ・フィリピン先住民族・農民リーダーの殺害に関する日本NGOの共同声明についての連名の依頼(WE 2 1より)について賛同表明(2/3)
- ・SDGs(持続可能な開発目標)への理解を市民に広げ必要に応じてキャンペーンは開催できませんでした。

(2)国を超えて市民が協力し、たすけあいの文化を育むため、寄付文化を拡げます。

混迷を続けるアフガニスタンの子どもたちの教育支援事業につながる「アジア・友だち・みらい貯金」を会員・地域市民に呼びかけ、寄付文化を高める取り組みをしました。募金箱を総会などで配布し、貯金箱 4個を寄付しました。

| 開催日 | 内容 | 開催場所 | 参加人数 |
|-----------------------|--|-------------------|------|
| 5月15日 | 日本のチャリティーショップの課題と展望 講師:WE21ジャパン理事 贅川恭子氏 | 市民活動センター アワーズ | 25人 |
| 9月4日 | 「日本と原発 4年後」上映会 (WE旭と共催) | 保土ヶ谷公会堂 | 290人 |
| 9月 14, 21, 27 日 | リメイク連続講座 Tシャツを利用した布ぞうりづくり 講師:リメイクチーム | 市民活動センター アワーズ | 9人 |
| 10月12日 | 貧困学習会 講師:認定NPO法人自立生活サポートセンター 大西連氏 | 岩間プラザ レクチャールーム | 23人 |
| 2月24日 | みんなで布チョッキン (現地での状況や活動紹介のお話の後、カンボジアの子どもたちの遊具づくりのお手伝い) 認定NPO法人 幼い難民を考える会 | ほどがや地区センター会議室 | 13人 |

| | | | |
|-------|---|-----------------------|------|
| 3月17日 | シンポジウム 「自分で選びたい！原発に頼らないエネルギー (株)会津電力社長・佐藤彌右衛門氏、 (株)生活クラブエナジー代表・半澤彰浩氏、 藤野電力PJリーダー・鈴木俊太郎氏 | 旭区民文化センター サンハートホール | 175人 |
|-------|---|-----------------------|------|

【日時】 2016年4月1日～2017年3月31日

【場所】 保土ヶ谷区

【従事者人数】 理事8名

【受益対象者】 一般市民、支援先の住民、会員、ボランティア

【支出額】 86,209円

IV WEほどがや事業の広報普及を図る事業(広報事業)

WEほどがやの活動の理解を深めるため、地域市民へ情報の受発信に努めます。

『基本方針』

- 1) WEほどがやの活動を伝え、広めるための広報をしていきます。
- 2) 広報の充実を図り、多世代にわたる市民への受発信に努めます。

『事業内容』

(1) 情報発信のための環境整備に努めます。

① WEほどがやの活動を地域市民に広く知らせる「ほどがやニュース」を 年4回(54号・55号 56号 57号) 各1000枚カラー印刷で発行しました。

WEほどがや三つ折りパンフ2015年度支援報告を印刷、支援ミニチラシを2016年度版に改訂し、800枚発行しました。

- ・ショップイベント企画やセールチラシは、年間計画を確認しながら、スタッフとの連携をもとに広報チームが作成することにした。
 - ・着物フェアチラシは1万枚印刷、5000枚を新聞折り込み、手まきも精力的に行い成果をだしました。
 - ・3月17日の自然エネルギーシンポジウム(WE旭、いずみと共催)チラシをほどがやが担当して作成しました。
 - ・寄付品チラシの一斉チラシまきを実施しました(6/29 境木本町地区 上星川団地 3000枚)
 - ・寄付品チラシの内容をスタッフで話し合い、見直しを行いました。
- ② ホームページ・ブログの充実、タイムリーな発信に努めました。
- ③ タウンニュースの取材を受け、2回掲載されました(熊本募金、原発映画)
- ④ 活動のテーマに沿った掲示で、ショップ内での効果的なアピールを常に模索しました。
星川にインフォメーションボードを設置し活用しました。
- ⑤ 会員・ボランティア・寄付者への活動報告と情報提供のため、ほどがやニュース、めぐりめぐる、イベント企画案内、寄付控除の案内を、手紙とともに送付しました。

(2) 新たな広報による受発信を検討します。

多様な地域情報を獲得し共有するための企画、内容の具体的な検討はできませんでした。来年度の課題です。

(3) 多世代にわたる市民への受発信に努めます。

- ①他団体・グループなどから地域情報を収集し、世代を超えた支援者、寄付者を集めることはできませんでした。
- ②テーマ性をもった企画として「日本と原発4年後」映画会、貧困学習会、シンポジウム「自分で選びたい！ 原発に頼らないエネルギー」を開催し、市民への参加を呼びかけました。

【日時】 2016年4月1日～2017年3月31日

【場所】 保土ヶ谷区

【従事者人数】 広報チーム4名、理事8名、ショップスタッフ6名

【受益対象者】 一般市民

【支出額】 69,789円

V 事業を实践するための組織活動

事業を实践するため、大ぜいの参加のもと、組織力を高めて活動をすすめます。

『基本方針』

- 1) 組織の充実を図り経営基盤を高めます。
- 2) 雇用者との情報を密にし、よりよい働き方をめざします。
- 3) 行政、企業、他団体・その他地域グループの企画に参加し、ネットワークを広げ活動を共有します。

『事業内容』

1) 持続可能な組織づくりのため、組織の充実と活性化を図り、経営基盤を高めます。

(1) 理事会を定例開催し組織運営能力を高めるように努めました。

- ①理事会の効率的な運営をめざしました。時間の効率化、短縮化がさらに必要です。
- ②代表者会議を充実し、できるかぎり事前資料の配付に心がけました。
- ③拡大理事会(理事・スタッフ)は開催できませんでした。
- ④各チーム、部会を定例化し、組織を活性化に努めました。

(2) 理事メンバーの拡大には至りませんでした。

世代交代、多様な世代に参加を広げることを目指しましたが、努力が足りませんでした。

持続的な組織にするため、多様なメンバーの参加を生み出す機会を増やし、理事の発掘をしていきます。

(3) 会員拡大をすすめます。

・会員拡大

| | | | | |
|----------|---------------------|-----|----|-----------|
| 正会員拡大目標 | ： 個人(年間 2,000 円) | 70人 | 現在 | 59人 |
| | 団体(年間 10,000 円) | 2団体 | 現在 | 1 団体 |
| 賛助会員拡大目標 | ： 個人(年間 500 円 一口以上) | 30人 | 現在 | 18人(23 口) |

団体(年間 3,000 円) 5団体・

(4) 寄付者の拡大をすすめます。

- ・認定NPO法人の寄付募集活動として、城南信用金庫、中央労金へ訪問し活動を紹介しました。その結果、城南信金では該当する顧客者にパンフレットを渡してもらえることになりました。
- ・寄付募集と活動への賛同者を増やす動きには至りませんでした。認定NPO法人に対する信頼に応えられるように、活動情報の発信を随時行うことが必要です。
- ・行政などによるNPO法人の学習会に参加しました。
- ・認定 NPO 会計の按分方法の見直しを行いました。

(5) ボランティア参加を引き出す仕組みづくりとボランティアの増員はできませんでした。特に天王町店では対策が必要です。

- ・若い世代の関心と呼び、参加を広げていくことは継続した課題です。
- ・ボランティアガイドをよりわかりやすい内容にするために見直し、両ショップで使えるように改訂をしました。ボランティアとの読み合わせが必要です。
- ・新年会を兼ねたボランティアミーティングを鎌倉で実施し、大ぜいの参加がありました(1/5 25人参加) 例年実施しているサンキューチケットに替わり、今年度は、ボランティアさんへの日頃の感謝を込めて、新年会の昼食代の補助をしました。

(6) よこはま夢ファンド(横浜市市民活動推進基金)助成団体登録を行いました。

2) 運営と事業を円滑に進めるため雇用を促進します。

①事務局1名、スタッフ6名の雇用契約をしました。

②雇用者との面談を実施できませんでした。

高齢化やボランティア不足、勤務形態の改善、世代交代など、様々な課題への解決をすすめるために、理事、スタッフで討議し、働き方の改革を進めます。

③ショップ運営を円滑にすすめるために、ショップスタッフミーティングは毎月開催しました。

2ショップの合同ミーティングは2回開催し、防災、防犯への危機管理、ショップ運営のアイデアなど、多彩な情報を共有し、有意義なミーティングとなりました(6/22, 2/22)。チャリティーショップとして地域に何ができるか、ワークショップなどを実施して考えていきます。

④スキルアップのためのスタッフ研修は実施できませんでしたが、実施に向けて内容を検討していきます。

3) 他団体・外部とのネットワークを拡大し、チャリティーショップとしての認知度を上げます。

地域NPO、生活クラブ運動グループ、地域の団体と連携してまちづくりに努めました。

チャリティーショップであるWEほどがやを、地域の居場所として価値をどのように高めるか、まちづくり協議会や地域の団体との連携がさらに必要です。

①岩崎中学校の職業体験(1/25~27 4人)や就労体験の場として受け入れに貢献しました。

ワーカーズコレクティブ協会の就労体験協力事業者懇談会に参加し、2月には事例報告をしました(11/11、2/24)

横浜市福祉職員4人が星川店視察に訪れ、受け入れ状況を報告しました(11/14)

就労支援の受け入れに関しては、全体での情報の共有が大切です。

- ②生活クラブ運動グループ「保土ヶ谷・西まちづくり協議会」に参加し、相互の活動の共有を図りました。
- ③ほどがや生涯学習フォーラム実行委員会まなぶん祭りに実行委員として参加しました。
- ④ほどがや市民活動センター アワーズ の協働運営会議に参加し、利用者交流会に参加しました。
- ⑤保土ヶ谷区魅力ある地域まちづくり事業「ほどがや 人・まち・文化振興会」に参加しました。
- ⑥横浜市内在住65歳以上の方対象の割引制度「濱ともカード」、子育て家庭応援事業「ハマハグ」の協賛店として継続しました。

【日時】 2016年4月1日～2017年3月31日

【場所】 保土ヶ谷区内

【従事者人数】 理事8名、星川店・天王町店スタッフ6名、

【受益対象者】 一般市民、会員、ボランティア

【支出額】 994, 521円

以上